

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年3月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2274202254
法人名	株式会社 イッセイ
事業所名	グループホーム 平和
所在地 (電話番号)	静岡市清水区西久保1-13-26 (電話) 0543-67-7805

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年11月22日

## 【情報提供票より】(19年11月11日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計18人
職員数	18 人	常勤13人, 非常勤5人, 常勤換算15.1人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造枠組壁工法造り 2階建ての1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,500 円	その他の経費(月額)	14,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月11日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名	
要介護1	1 名	要介護2	1 名			
要介護3	8 名	要介護4	4 名			
要介護5	2 名	要支援2	名			
年齢	平均	81.5 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	清水厚生病院、かとう整形外科医院、柴田内科医院、吉永医院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

重度の認知症や行動障害等がある利用者を積極的に受入れながらも、その人らしい生活を支援していこうと開設して2年を迎える。市街地に位置し、ホームの特性を踏まえ、地域との交流やホームの理解に努めてきたため、近隣住民の理解も深まり、地域に根付くホームとなっている。利用者の心身の機能の維持と向上に努め、一人ひとりの充実した生活が継続できるように、職員が一丸となって利用者へ寄り添う支援を行っている。何事も常に振り返り、更なる取り組みに向けて検討を重ねているので、利用者や家族からも信頼を得ている。利用者の生活の質の向上を目指して、様々な検討を行っているので、今後の取り組みにも期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の指摘事項であった介護計画の見直し方法については、計画期間に基づいて4~6ヶ月で確実に見直しを行っている。また、サービス提供状況確実に記録し、職員間で共有を図り、サービス向上に繋げようとしている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価を行う意義を十分理解し、全ての職員で自己評価を行った。一人ひとりが抱える課題等について、職員全員が共有することに繋がった。また、これまでの取り組みを振り返り、更なる取り組みに向けた話し合いの機会ももっている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を5月に開催したが、その後の開催が行えていない状況である。運営推進会議の役割やその開催意義については、十分理解しているので、利用者へのサービスの向上と運営の透明性を図るためにも、改めて立ち上げを行い、定期的な開催を期待したい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族との関係を深め、家族が何でも気軽に言える雰囲気づくりに努めている。訪問時や連絡を行う際には、意見や要望を把握するように心掛け、寄せられた事柄はホーム内で検討し、サービスや運営に反映させるようにしている。また、苦情等が出された場合も速やかに解決する仕組みが確立している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域自治会に加入し、地域行事にも積極的に参加する等、開設以降地域との交流を深めてきたため、近隣住民との交流も自然に行われ、地域に根付いたホームとなっている。近隣地域からの利用者も多く、友人も気軽に訪れたり、地域商店等への買い物等で、ホームの存在を伝える等の努力もしている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症になっても「住み慣れた地域(町)で暮らす」ことをホーム理念に掲げ、開設以降地域に根ざしたホーム運営を展開している。ホーム理念を内外に示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有するとともに、日々理念の実践に向けて取り組んでいる。利用者の心身機能の維持と向上に向けて、共に生活をしていくことを目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者に地域住民も多く、日ごろから知り合いや友人が訪ねてくる他、地域自治会に加入し、地域行事や祭り等にも積極的に参加している。近隣住民との交流も自然に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を行う意義を十分に理解し、全ての職員でこれまでの取り組みを振り返る機会として、積極的に取り組んでいる。職員個々の考えを全体で共有し、より良くして行こうと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	19年5月に発足させたが、それ以来開催できていない。地域自治会代表者や民生委員等の参加を得て行ったが、それ以降の開催に結びついていない。	○	会議の趣旨は理解しているので、現在の関わりのある地域関係者や行政職員、利用者や家族に呼びかけ、利用者サービスの向上や運営の透明性の確保に向けての定期的な開催を行うことに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じた市への連絡や定期的な介護相談員の受入れを行っているが、サービス向上に向けて、事例やケース検討等までは行っていない。	○	保険者である市(職員)に働きかけを行い、地域密着型サービス事業の充実や、利用者の生活の幅を広げるために定期的な検討を行えるように期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、利用者の生活の様子を伝える他、毎月介護記録(サービス提供記録)をコピーして、利用者の状況を伝えるようにしている。また、金銭出納状況も伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に意見を言えるような雰囲気づくりに努めている。家族からの意見は真摯に受け止め、些細な意見や要望等でも検討し、運営やサービスに反映させていくようにしている。また、苦情があった場合にも速やかに解決する仕組みが確立している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動による利用者への弊害を良く理解し、できる限りをそれを防ぐように努力している。離職がまれにあることをホーム自身も課題にしている。	○	離職する理由は様々あると思われるが、今後もできる限りそれを防ぐ取り組みを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービス向上には、職員研修の充実が不可欠と考え、内部研修の実施と、必要な外部研修への積極的な受講を促している。研修内容については、全ての職員が内容を共有するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じた他事業所職員との連絡をする機会はあるが、定期的な交流や研修実施までは行われていない。	○	地域内の他事業所職員との定期的な情報交換や交流、更には利用者の生活の幅を広げるための事例やケース検討等が行われるように検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況や様子を観察しながら、一人ひとりが望むサービス提供を行うように取り組んでいる。利用者の理解度が低下し、利用者が真にそのサービスを納得しているかを課題としながらも利用者の表情や仕草等から理解を深めるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者へのサービス提供を一時的なものにせず、利用者の心身機能の維持と向上を図りながら、共に喜び合える関係づくりを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。表現が十分に行えない利用者についても表情や仕草等から把握し、その内容を記録し、職員間で共有するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族の意見や要望を踏まえた具体的な介護計画策定を行っている。策定後は、介護計画内容の確認、同意を得るようにしている。また、毎月職員会議を開催し、介護計画内容の確認を行うと共に、職員からの気づきやアイデア等を出し合い、策定時にも反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議時に、計画内容を確認し、計画策定の変更が生じた場合には、速やかに変更するようにしている。また、4～6ヶ月で確実に具体的な見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの特性を踏まえて、利用者や家族の時々々の要望に可能な限り応えるようにしている。	○	利用者本位のサービス提供と充実した生活が継続できるように考えているので、今後も一人ひとりの時々々の要望に応えられるように期待したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望を尊重したかかりつけ医への受診支援を行っている。また、ホーム協力医の確保も行い、連携を図るようにしている。利用者及び家族が安心して受診できるような医療機関との連携を検討している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への対応については、これまでも検討を重ね、早い時期からそれぞれを意向を把握し、定期的に確認を得ながらその対応に備えている。ホームでの看取りの経験もある。管理者が看護師でもあり、訪問診療医と連携を図り、対応することとしている。	○	利用者及び家族のターミナルケアに対する思いも様々であるので、今後も意向を踏まえた現状の取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳や人格を損ねることが無いような支援を徹底して行っている。また、支援方法についても定期的に確認し、一人ひとりに合わせた支援をしている。また、個人情報の取扱いについても、理解を深め、適切に取り扱うように留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重した生活支援が行われている。無理強いせず、その人らしく生活できるようにその生活パターンも把握した支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に嗜好等も踏まえて献立を考え、一緒に買い物や調理を行い、職員も同じ物を同じテーブルで食べるようにしている。食事の一時を大切に考え、楽しい時間となるように会話を楽しんでいる。利用者も準備や片付けを自然に職員と行っている。	○	利用者とともに楽しい一時としている。利用者の心身機能の変化によるところもあるが、今後も是非続けて欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿っていつでも入浴できるように配慮している。利用者によってその頻度は異なるが、くつろいでゆったりと自由に入浴できるようにしている。また、入浴に際して支援が必要な場合にもプライバシー等に留意した支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握したうえで、日常生活から把握した楽しみごと等も記録し、職員間で共有するとともに、それが行えるような支援を行っている。ホーム内の役割も自然に分担され、楽しみごと等と併せて充実した生活が送れるように配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員同士連携を図り、柔軟な対応に心掛けている。利用者とのコミュニケーションを深め、ホーム内で過ごすだけにならないように外出支援を積極的に行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は一切施錠せず、見守るようにしている。利用者の自由な行動を見守り、外出したい場合には同行するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力も得ながら定期的な避難訓練実施を行うようにしている。地域や近隣住民の協力をいかに得ていくかを課題としている。	○	あらゆる事態を想定し、近隣住民等の協力がどのように得られるか検討し、訓練にも参加得られるような体制づくりにも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の栄養及び水分摂取については、必要な量が確実に摂れるように留意して摂取支援している。食事の献立も、利用者の嗜好を踏まえながらも、栄養のバランスに偏りが生じないように注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には天窓が設けられ、照明も間接照明とする等、利用者が落ち着いて過ごせるようにしている。家庭らしい調度品や装飾を行っており、利用者がゆったり過ごせるような配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの好みや生活感が溢れ、個性のある居室となっている。使い慣れた家具や調度品を持ち込み、利用者ごとに居心地良く過ごせるように、職員が利用者と定期的に話し合い等を行っている。		